

第一回 九州戯曲賞 審査過程

九州地域演劇協議会まとめ

日時 平成21年9月12日 午後4時～

場所 大野城まどかぴあ

事務局より、審査方針について

- ・大賞が出た場合、原則として他の賞は出さない
- ・大賞の水準に達しない場合は、大賞なしも可。
- ・大賞がない場合、佳作等の賞を出すことが出来る

■最終審査候補作品（5作品）

松本眞奈美（熊本県熊本市） 「トリコロール～労働の自由と平等と友愛と～」

篠崎省吾 中村芳子（福岡県太宰府市）「吉林食堂～おはぎの美味しい中華料理店～」

川口大樹（福岡県糟屋郡志免町） 「ひとんちで騒ぐな」

宮園瑠衣子（福岡県福岡市） 「春、夜中の暗号」

森馨由（長崎県佐世保市） 「白波の食卓」

各作品について、審査員からの講評をおこなう

「トリコロール～労働の自由と平等と友愛と～」

テレホンアポイントメントのパートをする3人の女性と無理解な上司との対立を軸にしたストーリー。

職場が舞台となる演劇は少なく、新たな可能性を感じさせる。労働環境が取りざたされる中、労働をテーマとしたことがよい。という講評が寄せられる。

また、話が小さくまとまったことやベルサイユのばらのモチーフをうまく使えていなかったことを惜しむ意見が寄せられた。

「吉林食堂～おはぎの美味しい中華料理店～」

残留孤児の物語をコメディタッチで描いた作品。生き別れになった母娘とその家族、三世代に焦点をあてた物語。

応募作の中でもっとも芯がある作品という意見が寄せられる。また、扱っているテーマへの評価の声上がる。

ストレートないい話で終わってしまうこと、母と娘を会わせまいとするドタバタにおわっていることを指摘する意見が寄せられた。

「ひとんちで騒ぐな」

実家の引っ越しを知らず、実家と信じて戻ってきた主人公を軸として展開するストーリー。舞台化されたときのお客さんの好反応が予想できること、若い作家のテクニックを評価する講評が寄せられた。

また、シチュエーションコメディと言うにはリアリティに欠ける。ただ笑える作品にとどまっているのではないかという指摘があった。

「春、夜中の暗号」

ドラマチックな展開を極力廃した作品。二人の同棲しているかのように見える男女の部屋に一人の男がやってくる。

候補作の中でもっとも体に来た作品という意見が寄せられる。と同時に会話は理解できるけれども作品全体をどのように解釈すべきなのか、また、最後に出て行った女はもどってくるのかどうか、審査員の議論となる。

「白波の食卓」

作者の住む佐世保を舞台としたストーリー。信太郎を救うため自らの命を犠牲にした夏彦。夏彦の姉妹を中心に話は進む。

人の心に生まれるさざ波を描く距離感とかテクニック、性や海の運命的などうしようもない力をうまくおさめている点を評価する意見があった。

一方、かきまわす役どころの美咲が、終盤ヒロインになってしまったこと、終わりを観客に委ねてよかったのではないかという意見があった。

一人持ち票 2 票で第 1 回目の投票

「白波の食卓」 4 票

「吉林食堂～おはぎの美味しい中華料理店～」 3 票

「春、夜中の暗号」 1 票

休憩

つづけて、一人持ち票 1 票で 2 回目の投票

「白波の食卓」 3 票

「春、夜中の暗号」 1 票

投票結果を受け、「白波の食卓」が大賞に値する作品かどうかについて、討議を重ねた結果、全審査員の意見の一致を見て、「白波の食卓」が大賞作品として選定された。